





ボランティアの高岡希望さんが案内放送し、サプライズで参加者の皆さまに「ふるさと」を独唱しました。



外来副看護師長 斉藤 末美 挨拶

沖縄オンギジャンイツアー委員会 平野 貴志

皆さん、こんばんは、今日のコンサートはいかがでしたでしょうか。

きっと、皆さまの心に、何か温かいものが残ったのではないのでしょうか・・・。

私は、この病院に勤めている看護師です。多くの仲間と共に、患者さんたちのお世話をさせていただいております。私は、賛美歌やゴスペルをよく歌ったり、聴いたりしておりますが、特に、オンギジャンイの‘祝福の泉’という曲に出会い心が癒されました。その感動を、職場の仲間や患者さんにも是非、お伝えしたいと思い、今回、コンサートを提案いたしました。今、ここにいらっしゃる患者さんのお一人お一人の心が少しでも癒され、健康回復につながれば幸いです。

渡辺和子氏の「おかれた場所で咲きなさい」という本がありますが、「自分が今いる場所で精いっぱい生きること、そこに、花を咲かせることができる。」とあります。

私たち一人一人が置かれた場所で花を咲かせるために、明日への力となれば幸いです。

これまで準備に携わったオンギジャンイ委員会の皆さま、共催の徳明会様、琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクトの皆さまに心から感謝いたします。

最後に遠く韓国から来ていただきましたオンギジャンイの皆さまに温かい拍手をお願い致します。

2018年12月6日（木）外来副看護師長 斉藤 末美

琉球大学医学部附属病院でのコンサートという、大変光栄な機会が与えられ、感謝の気持ちで一杯です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

オンギジャンイ委員会一同





オンギジャンイ（ゴスペルチーム-韓国）の皆さま、ありがとうございました。

本日は韓国の5名の若者による「ゴスペル癒しのクリスマスコンサート」を拝聴しました。

今回のこのコンサートは本院の外来副看護師長である斉藤末美さんのご尽力で実現したものです。ゴスペルの本質は「現代版賛美歌」というものでしょうか。イエス・キリストの降誕（誕生）を祝う祭であるクリスマスのコンサートとして相応しい内容でした。

私のスケジュールでは午後5時半から会議が入っていたのですが、その会議をキャンセルして、美しい歌声に聞き入ってしまいました。また最後にボランティアで参加した小学4年生の高岡希望（のぞみ）ちゃんの素晴らしい澄みきった歌声による童謡「ふるさと」も聞くことができました。

マイクを使っていなかったにもかかわらず、韓国の5名の若者の歌声はとても伸びやかで綺麗でした。私が感じたのは、このような綺麗な声を出すことができる方は、その心も綺麗である、ということでした。実際に琉球大学医学部附属病院に通院中、および入院中の患者さんを前にして、「一日でも早く健康を回復して欲しい、そして楽しいクリスマスを迎えて欲しい」という願いを込めて歌われていたと思います。国籍を超えた音楽の力であると感じました。

私自身も、韓国の青年のコメントにも述べられていたように、人間の力の及ばない大きな存在があり、その大きな力を包まれることが人間の幸せに繋がるという真理があると感じます。また我々が琉球には、自然神、および祖先を大事にするという世界に誇る素晴らしい伝統があります。大地、および天からの大きな力を得て、病気を治癒に導くことは可能であると思います。病院長としても、皆様の一日も早いご回復をお祈りいたします。

最後になりますが、このような素晴らしいコンサートを企画していただいた関係者各位の皆様の尽力に感謝し、私の挨拶としたいと存じます。

2018年12月6日（木）琉球大学医学部附属病院長：藤田 次郎

主催 沖縄オンギジャンイツアー委員会

共催 一般財団法人 徳明会

琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト





病院中庭のイルミネーション